

5 「札幌市の特性を活かした国際戦略に係る基礎調査」(抜粋)

◆ 目的

「札幌市国際化推進プラン」の改訂及び新たな総合的国際戦略策定に向けた基礎とするため、現在までの国際化推進事業等のデータを総合的に比較・分析し、札幌市の地域特性や限られた人的・財政的資源を踏まえ、札幌市の政策に関する中長期的な展望を見据えた資料の作成を目的とする。

- ・調査結果報告：平成 23 年(2011 年) 3 月
- ・調査受託機関：一般社団法人北海道総合研究調査会
- ・調査報告書 URL：http://www.city.sapporo.jp/kokusai/intl_research.html

(1)日本人市民意識調査

◆ 調査の目的

札幌市民の国際化に関する意識を把握するため、アンケート調査を実施し、2009 年に実施した「外国籍市民意識調査」との比較・分析を行う。

◆ 調査概要

- ・項目：
 - ① 外国との交流について
 - ② 札幌国際プラザ
 - ③ 外国人との交流
 - ④ 外国人と共に行うまちづくり
 - ⑤ 国際都市さっぽろ
- ・対象：住民基本台帳より無作為抽出した札幌市民 2,000 名
- ・手法：無作為抽出、郵送(往復)による調査
- ・回答数：586 件(送付件数 2,000 件、回答率約 29.5%)
- ・実施時期：平成 23 年(2011 年) 2 月

◆ 分析

[外国との交流について]

外国との交流経験のうち、約 6 割の人が「海外旅行」と答えており、性別では女性が男性を上回っている。

[外国人との交流]

市民では現状で外国人とコミュニケーションを取っている人は 1 割未満と少なく、今後の交流希望では、1 位は「外国の文化や習慣を学びたい」である。一方、外国人の方が「スポーツや趣味の活動」「町内会・自治会の活動」などの日常的な交流を望んでいる。

[国際都市さっぽろ]

国際都市「札幌」を実現する方策は、「世界で通用する人材の育成」「世界的な技術を有する中小企業の育成」が上位となっており、世界に通用する“人材”と“産業”の育成を課題とする意見が多い。

全体を通して目立つのは国際交流に対する女性の積極的な姿勢である。国際都市「札幌」の実現においては、女性の活用が重要な鍵を握っている。

◆ 調査結果（抜粋）

問2 あなたは今までに次の経験がありますか。いくつでも選んでください。

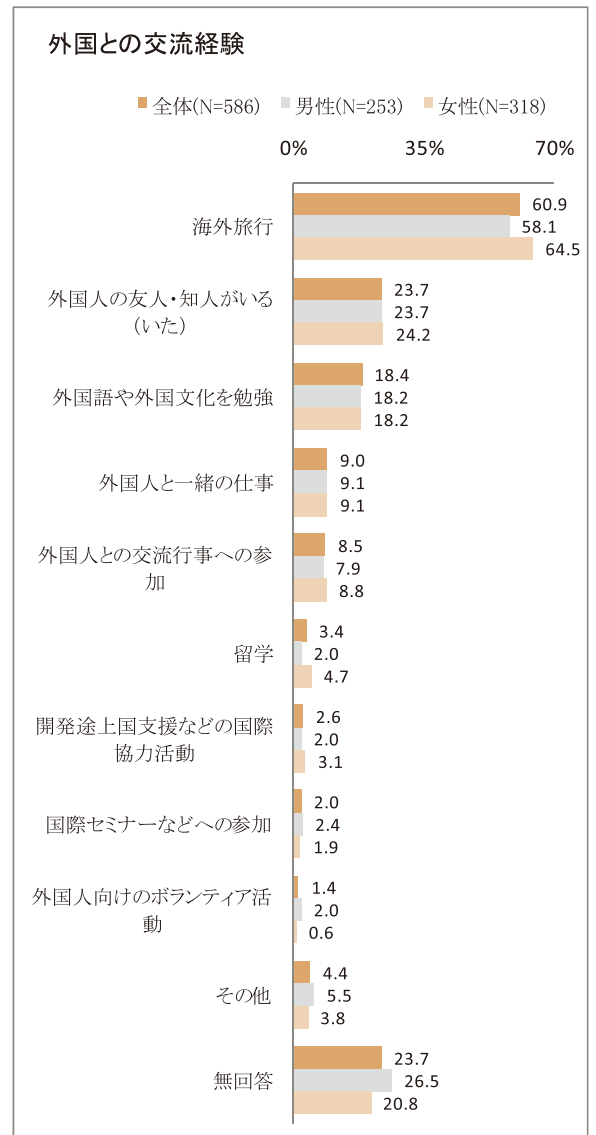
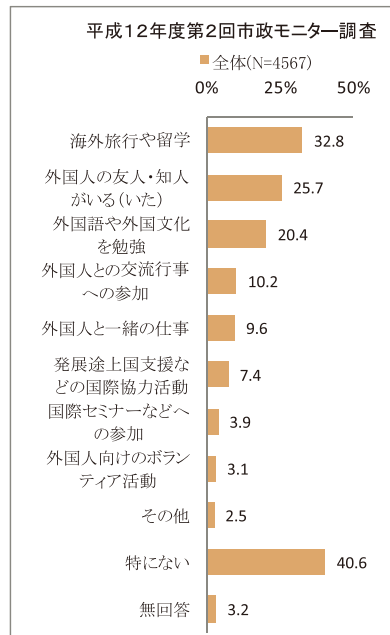
(いくつでも)

外国との交流の経験は、第1位「海外旅行」60.9%、2位「外国人の友人・知人がいる(いた)」23.7%、3位「外国語や外国文化を勉強」18.4%の順となっている。

性別にみると、「海外旅行」は女性が男性を上回っている。

年代別にみると、「海外旅行」は40代・50代、「外国人の友人・知人がいる(いた)」と「留学」は20代、「外国語や外国文化を勉強」と「外国人と一緒にの仕事」は20歳未満、「外国人と一緒にの仕事」は40代がそれぞれ高い。

参考までに平成12年度第2回市政モニター調査(以下、「平成12年度市政モニター調査」)では、第1位「海外旅行や留学」、2位「外国人の友人・知人がいる(いた)」、3位「外国語や外国文化を勉強」の順で、上位3項目は今回と同一である。しかし、1位の「海外旅行や留学」の比率は32.8%で、今回1位の「海外旅行」60.9%と6位の「留学」3.4%を合わせた64.3%の半分である。



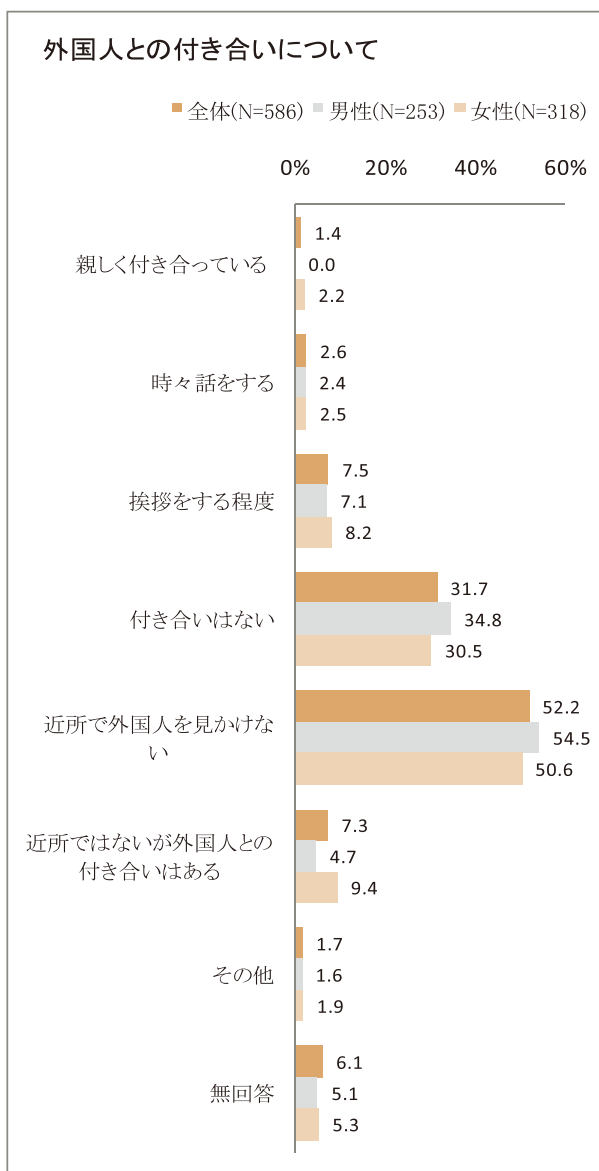
		海外旅行	外国人の友人・知人がいる(いた)	外国語や外国文化を勉強	外国人と一緒にの仕事	外国人との交流行事への参加	留学	開発途上国支援などの国際協力活動	国際セミナーなどへの参加	外国人向けのボランティア活動	その他	無回答
全体(N=586)		60.9	23.7	18.4	9.0	8.5	3.4	2.6	2.0	1.4	4.4	23.7
年代別	20歳未満(N=32)	31.3	25.0	62.5	0.0	21.9	0.0	3.1	0.0	0.0	9.4	18.8
	20～29歳(N=43)	51.2	41.9	48.8	14.0	11.6	16.3	0.0	2.3	4.7	2.3	18.6
	30～39歳(N=102)	65.7	29.4	14.7	9.8	5.9	8.8	0.0	2.0	0.0	4.9	20.6
	40～49歳(N=104)	74.0	27.9	16.3	16.3	14.4	0.0	2.9	2.9	1.0	5.8	15.4
	50～59歳(N=93)	71.0	19.4	16.1	10.8	5.4	2.2	4.3	4.3	1.1	2.2	17.2
	60～69歳(N=114)	62.3	21.1	10.5	5.3	7.0	0.9	4.4	1.8	2.6	4.4	25.4
	70～79歳(N=48)	56.3	14.6	6.3	6.3	4.2	2.1	4.2	0.0	0.0	8.3	35.4
	80歳以上(N=37)	35.1	8.1	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.8
	無回答(N=13)	30.8	15.4	23.1	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	38.5

問 9 近所に住んでいる外国人との付き合いについて、あてはまるものを選んでください。

(いくつでも)

近所に住んでいる外国人と「親しく付き合っている」は1.4%、「時々話をする」2.6%、「挨拶をする程度」7.5%など、何らかのコミュニケーションをとっている人は1割未満である。逆に「付き合いはない」が31.7%、「近所で外国人を見かけない」が52.2%と多数を占める。

性別にみても大きな違いはみられない。

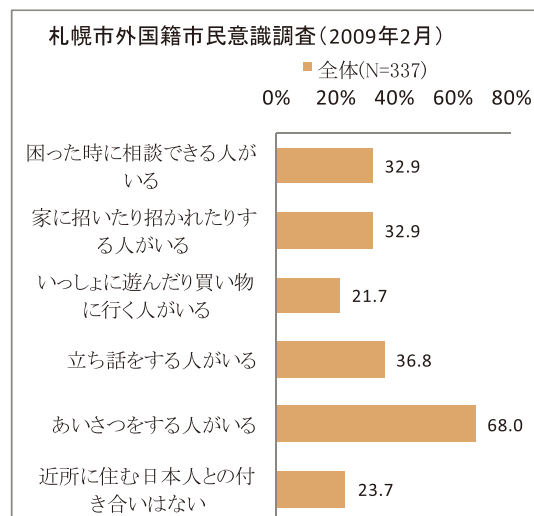


<その他内訳>
 英会話教室の講師との接触
 娘が外国人と付き合いしている
 子供が習っていた英語の先生
 仕事場で来客

年代別にみると、「近所ではないが外国人との付き合いはある」は20歳未満で2割を超え他の年代と比べて高い。

		親しく付き合っている	時々話をする	挨拶をする程度	付き合いはない	近所で外国人を見かけない	近所ではないが外国人との付き合いはある	その他	無回答
全体(N=586)		1.4	2.6	7.5	31.7	52.2	7.3	1.7	6.1
年代別	20歳未満(N=32)	3.1	3.1	12.5	18.8	56.3	21.9	6.3	3.1
	20～29歳(N=43)	0.0	0.0	4.7	20.9	72.1	7.0	0.0	0.0
	30～39歳(N=102)	2.0	5.9	6.9	29.4	60.8	4.9	1.0	1.0
	40～49歳(N=104)	0.0	1.0	6.7	34.6	50.0	7.7	1.9	5.8
	50～59歳(N=93)	1.1	3.2	5.4	28.0	57.0	6.5	1.1	3.2
	60～69歳(N=114)	1.8	2.6	9.6	43.0	41.2	8.8	0.9	6.1
	70～79歳(N=48)	0.0	0.0	10.4	39.6	50.0	4.2	2.1	8.3
	80歳以上(N=37)	2.7	0.0	8.1	27.0	35.1	2.7	5.4	24.3
	無回答(N=13)	7.7	7.7	0.0	7.7	46.2	7.7	0.0	38.5

参考までに、2009年実施の「札幌市外国籍市民意識調査」では、近所に住む日本人との付き合いについて質問している。外国人では「困った時に相談できる人がいる」「家に招いたり招かれたりする人がいる」はいずれも3割強を占め、「近所に住む日本人との付き合いはない」人は2割強と少数派である。

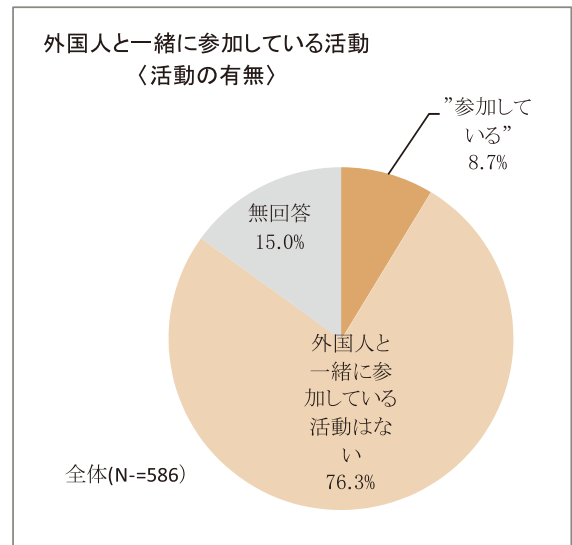


問 10 住んでいる地域で外国人と一緒に参加している活動はありますか。

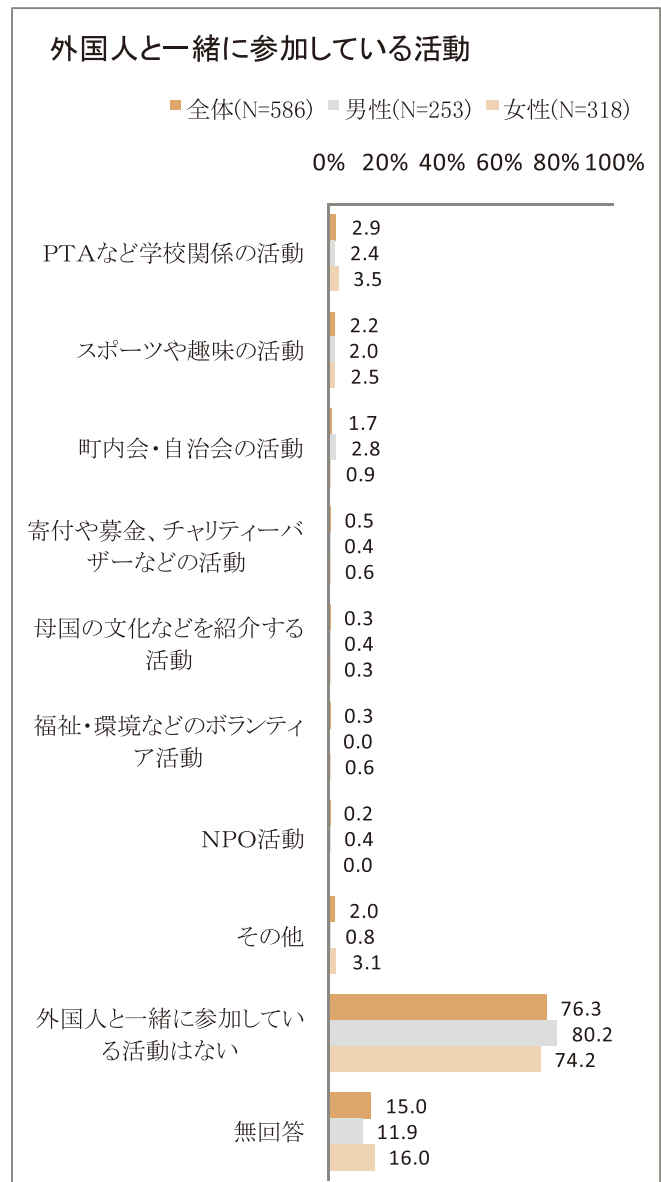
(いくつでも)

住んでいる地域で外国人と一緒に参加している活動はいずれも数%と低く、すべて合わせても 8.7%と 1 割未満である。「外国人と一緒に参加している活動はない」人が 76.3%と 8 割近くを占める。

性別にみても大きな違いはみられない。

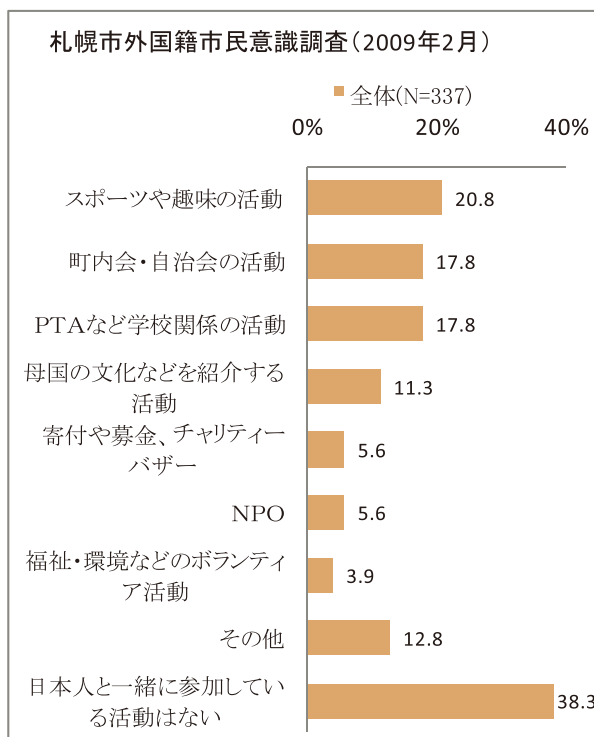


<その他内訳>
 会社の仕事
 宗教が同じ
 聖書の学び
 地域でパーティー、お茶会
 学校の英語の授業のときに来る
 韓国人経営の会社に参画した
 老健施設で英会話教室
 外国人と親しくなり友達の国に約1か月間お世話になった
 語学教室



年代別にみると、「PTA など学校関係の活動」は 20 歳未満が最も高い。

参考までに 2009 年実施の「札幌市外国籍市民意識調査」をみると、外国人では 1 位「スポーツや趣味の活動」、2 位「町内会・自治会の活動」・「PTA など学校関係の活動」、3 位「母国の文化などを紹介する活動」の順となっている。

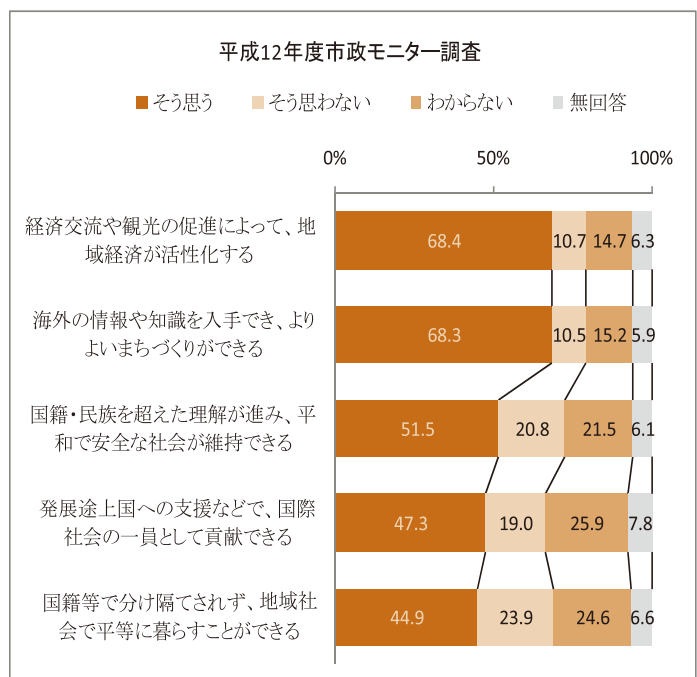
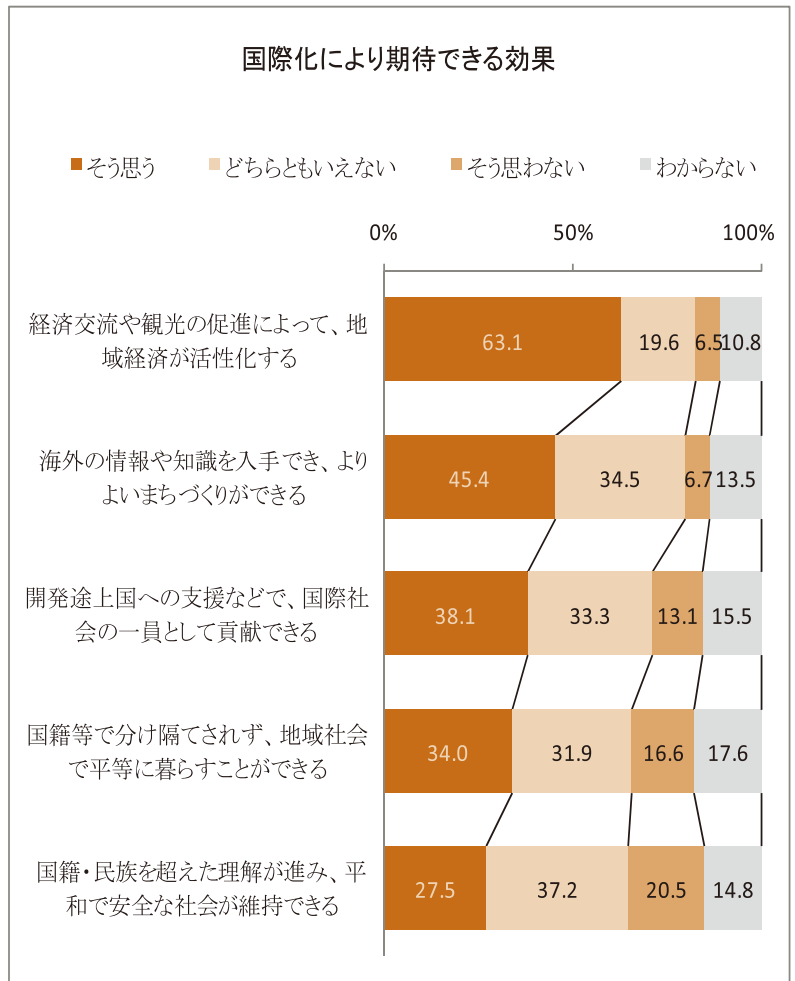


問 16 あなたは、札幌市が国際化を進めることで次のような効果が期待できると思いますか。

国際化により期待できる効果として「そう思う」が高い順に並べると以下の通りである。

- 第 1 位「経済交流や観光の促進によって、地域経済が活性化する」63.1%
- 第 2 位「海外の情報や知識を入手でき、よりよいまちづくりができる」45.4%
- 第 3 位「開発途上国への支援などで、国際社会の一員として貢献できる」38.1%
- 第 4 位「国籍等で分け隔てされず、地域社会で平等に暮らすことができる」34.0%
- 第 5 位「国籍・民族を超えた理解が進み、平和で安全な社会が維持できる」27.5%

平成 12 年度市政モニター調査では「どちらともいえない」という選択肢がないため直接的な比較はできないが、順位を比べると 1 位と 2 位は違いがみられない。



(詳細)経済交流や観光の促進によって、地域経済が活性化する

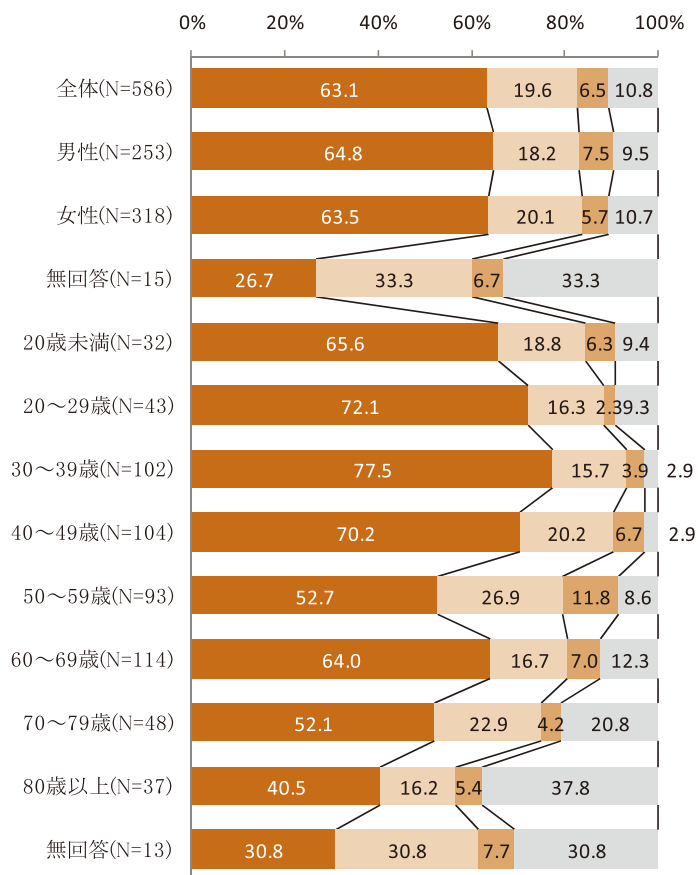
「そう思う」が63.1%と6割強を占める。これに対して「そう思わない」は6.5%と少数派である。

性別にみても大きな違いはみられない。

年代別にみると、「そう思う」は20代～40代は7割以上と高いが、50代では5割強と60代よりも低い。「そう思わない」は50代が最も高い。

③ 経済交流や観光の促進によって、地域経済が活性化する

■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ わからない



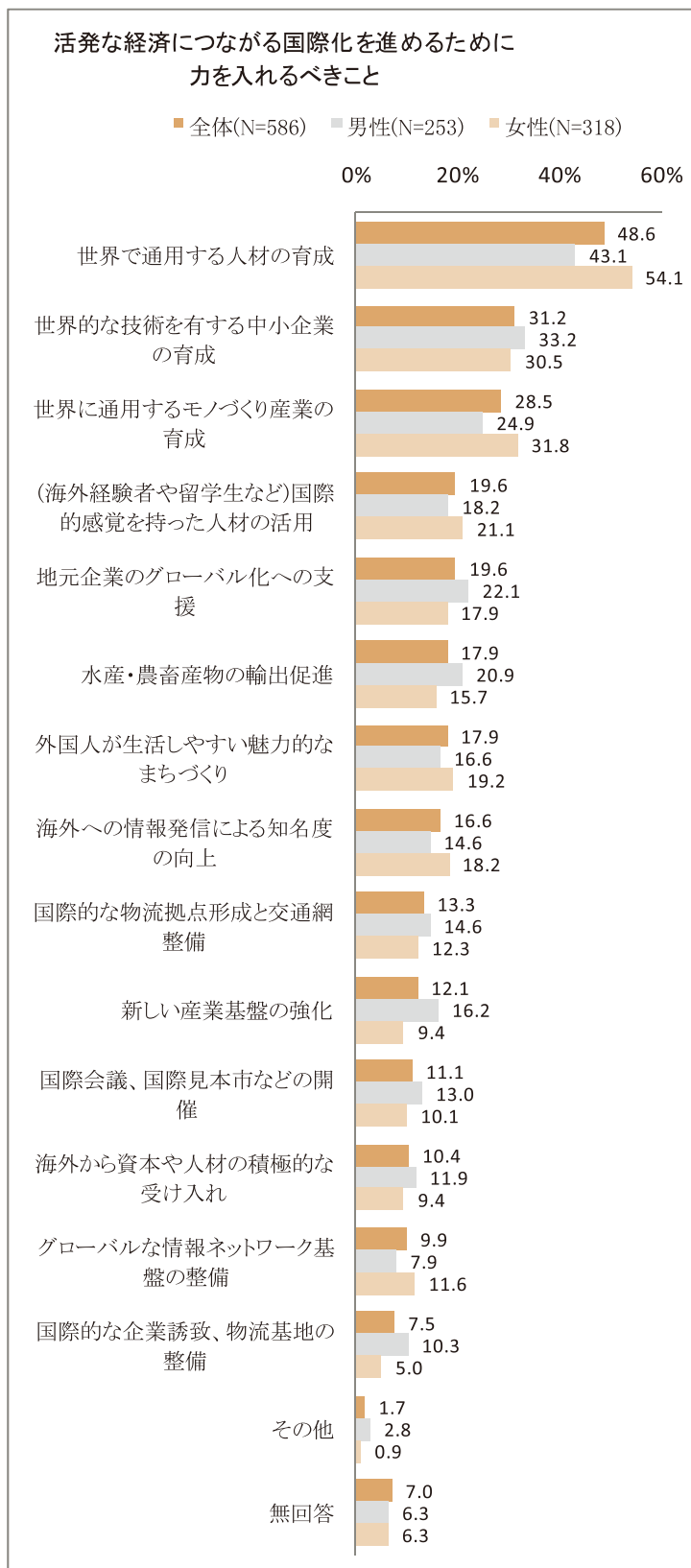
問 17 札幌市は、活発な経済につながる国際化を進めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

活発な経済につながる国際化を進めるために力を入れるべきことは、第1位「世界で通用する人材の育成」48.6%、2位「世界的な技術を有する中小企業の育成」31.2%、3位「世界に通用するモノづくり産業の育成」28.5%の3項目がベスト3である。

性別にみると、「世界で通用する人材の育成」と「世界に通用するモノづくり産業の育成」は女性が男性を上回っている。逆に「水産・農産物の輸出促進」と「新しい産業基盤の強化」は男性が女性を上回っている。

<その他内訳>

- 海外への留学
- 外国への留学支援
- 国内の200万以下の格差の解消
- 子どもの英語教育
- 自分の住んでいる札幌市をよく理解すること
- 水産資源の保護技術を企業・研究機関・官公庁が一体となった開発
- 日本をよく知る人材の育成
- 日本人の考え方も変わる。NOと言えるような強い気持ちも必要
- 輸出強化につながるものを市が独自に考え、世界で一番の物を作る



年代別にみると、「世界で通用する人材の育成」は50代と70代、「世界に通用するモノづくり産業の育成」と「国際的な物流拠点形成と交通網整備」は50代、「(海外経験者や留学生など)国際的感覚を持った人材の活用」は80歳以上、「地元企業のグローバル化への支援」は20代～30代、「水産・農畜産物の輸出促進」は60代と80歳以上、「外国人が生活しやすい魅力的なまちづくり」は20代以下、「海外への情報発信による知名度の向上」は20代、「新しい産業基盤の強化」は60代、「海外から資本や人材の積極的な受け入れ」「グローバルな情報ネットワーク基盤の整備」は20歳未満が、それぞれ高い。

(%)

	世界で通用する人材の育成	世界的な技術を有する中小企業の育成	世界に通用するモノづくり産業の育成	(海外経験者や留学生など)国際的感覚を持った人材の活用	地元企業のグローバル化への支援	水産・農畜産物の輸出促進	外国人が生活しやすい魅力的なまちづくり	海外への情報発信による知名度の向上	国際的な物流拠点形成と交通網整備	新しい産業基盤の強化	国際会議、国際見本市などの開催	海外から資本や人材の積極的な受け入れ	グローバルな情報ネットワーク基盤の整備	国際的な企業誘致、物流基地の整備	その他	無回答	
全体(N=586)	48.6	31.2	28.5	19.6	19.6	17.9	17.9	16.6	13.3	12.1	11.1	10.4	9.9	7.5	1.7	7.0	
年代別	20歳未満(N=32)	43.8	18.8	21.9	21.9	12.5	15.6	31.3	15.6	15.6	9.4	9.4	28.1	21.9	3.1	0.0	3.1
	20～29歳(N=43)	39.5	30.2	27.9	18.6	30.2	14.0	30.2	23.3	9.3	7.0	11.6	18.6	9.3	2.3	2.3	4.7
	30～39歳(N=102)	45.1	34.3	29.4	15.7	26.5	11.8	22.5	16.7	14.7	9.8	12.7	9.8	16.7	10.8	3.9	3.9
	40～49歳(N=104)	52.9	28.8	27.9	26.0	24.0	16.3	19.2	15.4	14.4	9.6	6.7	11.5	9.6	9.6	1.0	3.8
	50～59歳(N=93)	55.9	31.2	38.7	14.0	22.6	14.0	15.1	17.2	19.4	11.8	12.9	9.7	8.6	6.5	1.1	1.1
	60～69歳(N=114)	44.7	34.2	30.7	18.4	11.4	26.3	10.5	15.8	13.2	21.1	11.4	8.8	7.9	7.0	1.8	9.6
	70～79歳(N=48)	56.3	33.3	29.2	20.8	8.3	18.8	14.6	18.8	4.2	12.5	12.5	4.2	6.3	6.3	0.0	16.7
	80歳以上(N=37)	54.1	35.1	5.4	29.7	16.2	29.7	10.8	10.8	5.4	10.8	16.2	0.0	0.0	5.4	2.7	16.2
	無回答(N=13)	23.1	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	0.0	30.8

問 20 あなたは、札幌の魅力を海外に発信するために、市として何をすべきだと思いますか。

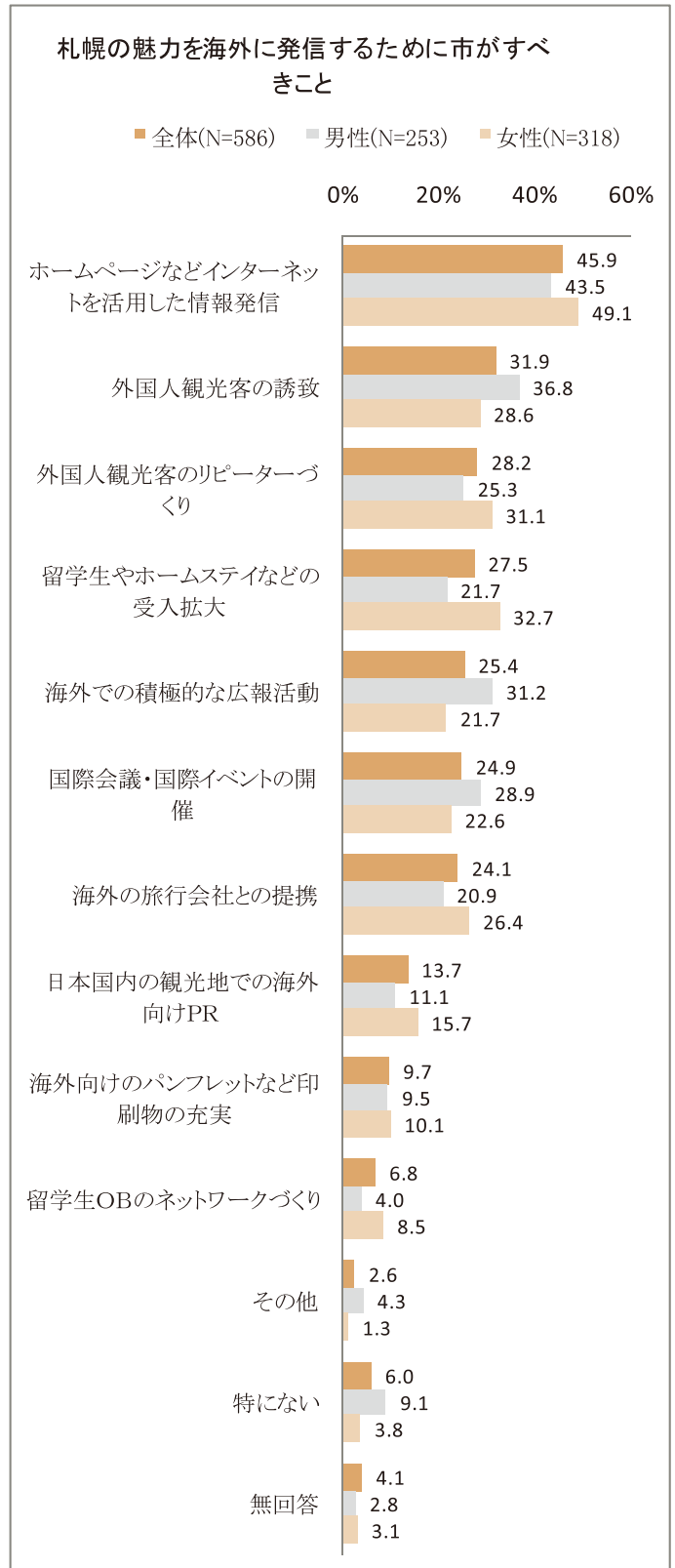
(3 つまで)

札幌の魅力を海外に発信するために市がすべきことは、第1位「ホームページなどインターネットを活用した情報発信」45.9%、2位「外国人観光客の誘致」31.9%、3位「外国人観光客のリピーターづくり」28.2%、4位「留学生やホームステイなどの受入拡大」27.5%、5位「海外での積極的な広報活動」25.4%、6位「国際会議・国際イベントの開催」24.9%、7位「海外の旅行会社との提携」24.1%の順で、以上が2割を超える項目である。

性別にみると、「ホームページなどインターネットを活用した情報発信」「外国人観光客のリピーターづくり」「留学生やホームステイなどの受入拡大」などの項目は女性が、逆に「外国人観光客の誘致」「海外での積極的な広報活動」「国際会議・国際イベントの開催」は男性が、それぞれ他を上回っている。

<その他内訳>

アジアにこだわらず世界各地の見本市を開催し交流を深める
ドバイやインチョンなどの空港にパンフレットを置く
案内板、観光ガイドの充実
映画などの“コンテンツ”からの間接的な情報発信
在住外国人が住みやすい環境づくり
札幌の経済の安定
札幌の魅力を再確認と分析と展開
札幌を訪れたいと思わせる広報、情報の発信
人的交流の機会を増やす
千歳のさらなる国際空港化と札幌へのアクセス利便性
日本固有のイベント事などの参加を促す。
美しさ、治安の良さの維持
北海道としての活動と連携した無駄のない活動を
食べ物の美味しさ、豊富な自然などの観光資源をアピール
無駄金使っていないで地道に金かけないでやって下さい



年代別にみると、「ホームページなどインターネットを活用した情報発信」と「外国人観光客のリピーターづくり」は30代・40代、「外国人観光客の誘致」は60代以上、「留学生やホームステイなどの受入拡大」と「国際会議・国際イベントの開催」は20歳未満、「海外での積極的な広報活動」は70代、「海外旅行会社との提携」は20代・30代がそれぞれ高い。

(%)

	ホームページなどインターネットを活用した情報発信	外国人観光客の誘致	外国人観光客のリピーターづくり	留学生やホームステイなどの受入拡大	海外での積極的な広報活動	国際会議・国際イベントの開催	海外の旅行会社との提携	日本国内の観光地での海外向けPR	海外向けのパンフレットなど印刷物の充実	留学生OBのネットワークづくり	その他	特にない	無回答	
全体(N=586)	45.9	31.9	28.2	27.5	25.4	24.9	24.1	13.7	9.7	6.8	2.6	6.0	4.1	
年代別	20歳未満(N=32)	50.0	18.8	18.8	50.0	25.0	34.4	9.4	18.8	3.1	3.1	0.0	9.4	0.0
	20～29歳(N=43)	46.5	23.3	39.5	27.9	25.6	16.3	34.9	7.0	7.0	2.3	7.0	9.3	0.0
	30～39歳(N=102)	54.9	28.4	41.2	31.4	21.6	23.5	33.3	11.8	6.9	10.8	2.0	3.9	2.0
	40～49歳(N=104)	55.8	24.0	37.5	26.9	18.3	26.9	16.3	12.5	6.7	9.6	4.8	3.8	1.9
	50～59歳(N=93)	43.0	32.3	25.8	26.9	29.0	25.8	21.5	8.6	9.7	6.5	3.2	4.3	4.3
	60～69歳(N=114)	47.4	41.2	21.1	22.8	32.5	24.6	30.7	20.2	15.8	5.3	1.8	4.4	1.8
	70～79歳(N=48)	29.2	41.7	16.7	22.9	35.4	29.2	16.7	14.6	8.3	4.2	0.0	14.6	6.3
	80歳以上(N=37)	24.3	45.9	8.1	27.0	18.9	24.3	13.5	16.2	18.9	0.0	0.0	10.8	13.5
無回答(N=13)	15.4	23.1	15.4	7.7	7.7	7.7	30.8	15.4	7.7	23.1	0.0	0.0	46.2	

(2)札幌市における SWOT 分析

これまでの札幌市の現状、各種ヒアリング、市民意識調査などの結果を踏まえ、札幌市における SWOT 分析を行った結果が下表である。

札幌市における SWOT 分析

内部環境	強み<Strength>	弱み<Weakness>
	<p>観光・コンベンション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外での高い知名度 ・豊富な観光資源、美味しい食べ物 ・魅力ある北海道の中心都市 ・コンベンション実施に必要な条件完備 <p>国際貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積雪寒冷地という特色 ・姉妹都市交流、冬の都市市長会の実績 ・途上国に見本となるまちづくりの歴史 <p>文化・スポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PMF での先導的交流プログラム ・国際的スポーツイベント実施の経験 ・デザインと看護を担う札幌市立大学 <p>在住外国人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総領事館など外国公館等の設置の多さ ・暮らしやすい生活環境 ・外国人とのトラブルが少ない ・国際化に対して好意的な市民感情 <p>経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な人材が数多く存在 	<p>在住外国人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少ない外国人登録者数 ・市民と外国人との交流経験の不足 ・多文化共生に向けた環境の未整備 ・少ない留学生の受け入れ数 <p>観光・コンベンション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少ない座席数、高い航空運賃 ・観光インバウンド受入体制の弱さ <p>経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少ない外資系企業の進出 ・海外展開に向けた企業取組の不足 ・小さい市場規模(首都圏から遠い) ・物流拠点を有していない点 ・高い物流コスト(積み替え/独占) ・製造業の集積がない
外部環境	機会<Opportunity>	脅威<Threat>
	<ul style="list-style-type: none"> ・新千歳空港国際線ターミナルの完成 ・アジアの経済進展及び観光客増大 ・北海道ブランドのニーズの高まり ・羽田空港とのアクセスの良さ及び羽田空港の国際化 ・TPP による貿易拡大 ・環境に関する世界的関心の高まり ・東京一極集中からの転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部要因に左右されやすい観光産業 ・風評被害などによる北海道ブランドの失墜 ・日本及びアジア諸都市との競争激化 ・他観光地との競争激化 ・TPP による他都市の貿易拡大

◆ SWOT分析の詳細

強み<Strength>

①海外での高い知名度

札幌市の持つ最大の強みは、「海外での高い知名度」であるといえる。冬季五輪の開催や北海道の魅力と合致した観光地としての人気など、これまでの実績を背景として、既に海外において一定の知名度がある。他の政令指定都市では、まず海外の方に自分の都市を知ってもらうことを目的とした施策を実行せざるを得ない点に比べると、非常に大きな強みといえる。

上記と関連し、「観光都市としての魅力」も強みといえる。これは、北海道全体のイメージに立脚した魅力であるが、北海道の中心都市としての札幌市は、北海道観光の人気の高まりが札幌市の活力につながるため、今後とも北海道と連携しながら進めていくことが重要となる。また、コンベンション実施など MICE の振興にあたって、単に国際会議場が整備されているだけでなく、近傍の観光資源など都市の魅力が誘致のポイントになる。この点においても、札幌市は他の政令指定都市と比べ強みを持っているといえる。

②特徴的な積雪寒冷地の都市

札幌市の特長の 1 つとして「積雪寒冷地の都市」である点があげられる。人口 100 万人以上の都市で、年間降雪量が約 6m という気象条件は世界的にも少なく、積雪寒冷地の中では世界をリードする都市であるといえる。

また、「途上国に見本となるまちづくりの歴史」も札幌市の特長の 1 つといえる。開拓から 100 年ほどで 190 万人が住む都市を築きあげた札幌市の事例は世界的にみて少ない例であり、途上国にとっては道路インフラ、街区整備などまちづくりの全てが貴重な事例である。特に、JICA 研修で実施コースが多いものとして水道技術がある。札幌市は取水から供給、廃水処理までを市内で一貫して行っており、国際貢献を考える上では良い素材であるといえる。

③文化・スポーツなどの実績

文化面では、1990 年から始まっている PMF は貴重な資源である。世界の若手音楽家の育成を目的とした国際教育音楽祭であり、教育プログラムだけでなく一般に公開するオープンリハーサルや小中学校音楽教師等を対象とした教育セミナーなど多彩なプログラムが行われている。運営も札幌市を主体としながらも、多くの団体や企業が協力しており、市民との協働を具現化した良い例といえる。このほか、冬季オリンピック大会や FIFA ワールドカップ™、FIS ノルディックスキー世界選手権札幌大会など多くの国際的スポーツイベントを実施した経験も強みといえる。

また、札幌市立大学を有している点も重要な視点である。現在、政令指定都市において市立大学を持つのは、札幌市、横浜市、名古屋市、大阪市、神戸市、北九州市の 6 都市のみであり、またデザインと看護という他とは違った学部を持つという札幌市立大学の特徴は、今後の強みとなる。

④外国人に友好的な市民感情

札幌市の特長として、総領事館や領事館、名誉領事館を含めた外国公館等の設置が多い点があげられる。23 か国の設置は、大阪市、名古屋市に次ぐ政令指定都市のうち 3 番目となっている。外国公館が多いということは、これまでに各国とつながりがあり、さらに発展させていける可能性があることを示している。

また、これまで在住外国人の数も少なかったこともあり、大きなトラブルはあまり見られなかった。これは、市民アンケートからも伺うことができ、外国人に対して好意的な市民像を想定することができる。

弱み<Weakness>

①多文化共生に向けた経験の不足

札幌市の弱みとしては、少ない外国人登録者数とそれに伴う環境の未整備があげられる。札幌市の外国人登録者数の割合は人口全体の 0.5%であり、政令指定都市の中で最も低い割合である。人数が少なかったため、切迫した外国人対応が求められてこなかったという背景がある。

外国人登録者の割合が低いことは、これまで札幌市において外国人の活躍の場があまり多くなかったことを表している。また、札幌の一般市民の意識としても、国際化や多文化共生に対する意識があまり醸成されていないといえる。

外国籍市民と一般市民の意識のずれは、市民意識アンケート調査でもみられる。スポーツや趣味、町内会活動など普段どおりの生活を通じて隣人と付き合っていきたいという外国籍市民に対して、一般市民は「外国の文化や習慣を学びたい」というような、一種お客様を相手にするような付き合い方を求めており、これまで交流経験が少なかったことが読み取れる。

在住外国人に対する理解の不足により外国人が住居を借りにくいという状況がある。

②観光の受け入れ環境の脆弱さ

札幌市の強みとして「観光都市としての魅力」をあげたが、一方で、海外、特にアジアから北海道へ訪れる際には、航空機材が小さく座席数が少ない。結果として、1人当たりの航空運賃は高くなる。現在、高い航空運賃を払っても北海道・札幌への観光へ訪れる人は拡大しているところであるが、今後も継続するとは限らない面がある。

また、札幌市内のホテルや観光施設、飲食店などに関して、観光インバウンドの受入体制が十分でない部分がある。今後、国や道の政策を踏まえると、5年後には現在の3倍の外国人が訪れることが見込まれ、対応が求められる。

③経済面での海外展開の不足

札幌市における経済面での海外との取引は十分でないと考えられる。都道府県別の外資系企業数は、政令指定都市を持つ都道府県のうち下から2番目であり、海外展開に向けた企業の取組についても、現地での展示会開催や商談会開催などは行われているところであるが、恒常的な取引までつながっている例はあまり多くない。

北海道及び札幌市は、首都圏と比べ、市場規模も小さく、首都圏からも離れていることからなかなか外資系企業が拠点を置くところまでの経営判断がなされない面がある。また、札幌市内の企業からものを輸出することを考えても、物流ルートが確立しておらず、積み替えなどの手間により物流コストが非常に高いものとなる。また、直行便が就航しても独占状態であるため積み替えた場合より物流コストが下がらないという逆転現象がみられる。これらの問題を解決するためには、輸出量を増やすことが求められるが、そもそも製造業の集積が少ないという面もある。

機会<Opportunity>及び脅威<Threat>

①観光に関する機会の拡大と脆弱さの露呈

アジアから北海道への観光については、平成22年3月に新千歳空港国際線ターミナルビルがオープンしたことを契機に、CIQ体制も拡充され旅客機の受入体制が整ってきたといえる。また、中国からの旅行者に対するビザ発給条件の大幅緩和、北海道ブランドに対するニーズの高まりなど、今後も北海道への観光の増大が期待でき

る外部環境が整ってきた。

一方で、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響により大幅な観光客の減少がみられるなど、流動性が非常に高い。原発の問題が落ち着けば観光客も戻るとの見込みもあるが、その間に他の観光地に人の流れを奪われるという危険性は高いといえる。

②TPP による効果と競争

環太平洋戦略的経済連携協定(TPP、Trans-Pacific Partnership)は、元々シンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドの 4 か国加盟で発効した経済連携協定である。その後、アメリカやオーストラリアなどが参加を表明し、サービス、人の移動、基準認証などの整合性を図り、貿易関税の撤廃を目指している。日本も参加に前向きであり、参加した場合、貿易の大幅な拡大が期待される一方で、取組や準備が不十分である場合、他都市にその機会を奪われるという危険性もある。

6 中学生へのアンケート調査

◆ 目的

外国や海外に対する中学生の認識などについて調査を行い、人材育成事業や国際交流プログラム構築等に向けた参考資料とする。

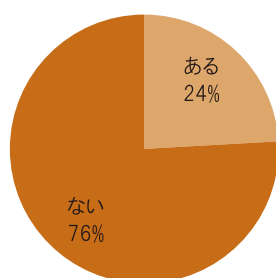
◆ 調査の方法

- ・項目：海外との交流や、興味・関心、外国人との接点などについて調査を実施。
- ・対象：札幌市内 2 中学校在籍生徒
- ・手法：札幌市内 2 中学校でアンケート用紙を配布し、回収
- ・回答数：221 件
- ・実施時期：平成 24 年(2012 年)5 月 28 日

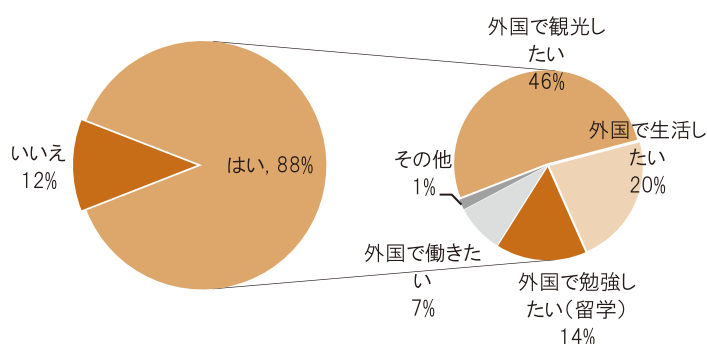
◆ 分析

問1 あなたは外国に行ったことがありますか。

(いくつでも)

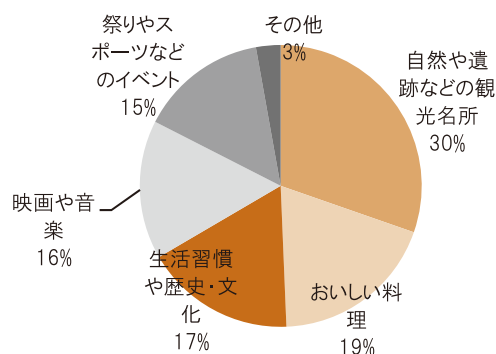


問2 あなたは外国に行きたいと思いますか。



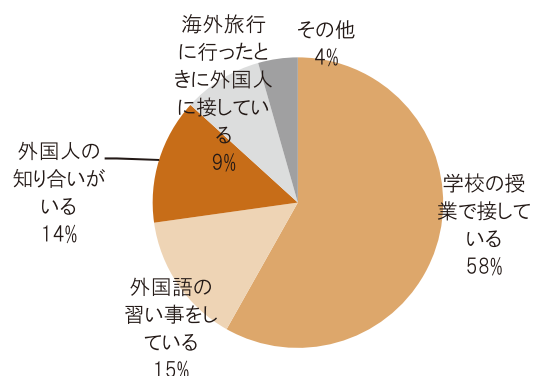
問3 あなたは外国のどのようなところに魅力を感じていますか。

(2 つまで)

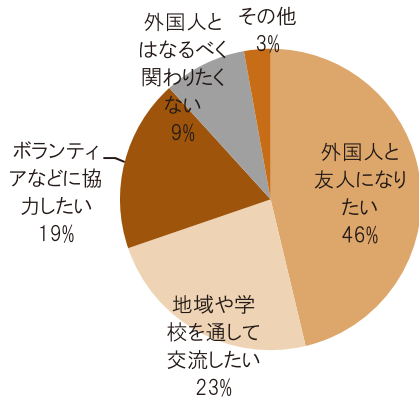


問4 あなたは実際に外国や外国人と接していますか。

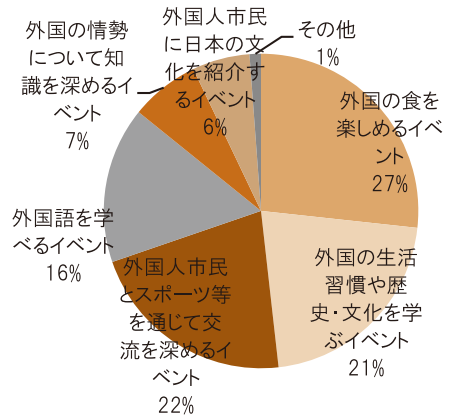
(いくつでも)



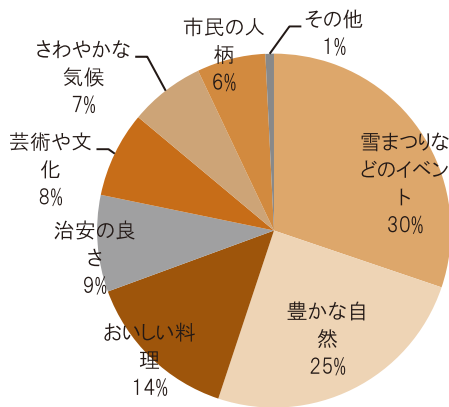
問5 あなたは外国人とどのような交流をしたいですか。



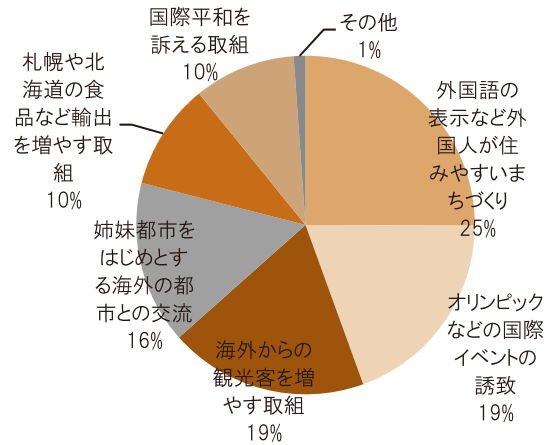
問6 あなたが参加したいと思うイベントはどれですか。



問7 札幌が世界に誇れる魅力は何だと思いますか。



問8 札幌が国際都市として今後目指すべきことは何だと思いますか。



7 パブリックコメント手続

札幌市国際戦略プラン案について、平成25年12月20日(金)から平成25年1月20日(月)までの32日間にパブリックコメントを実施し、いただいたご意見を参考に、当初案を一部変更しました。

◆ 意見募集実施の概要

・意見募集期間

平成25年12月20日(金)から平成26年1月20日(月)までの32日間

・意見提出方法

FAX、Eメール、ホームページ上の意見募集フォーム、郵送、持参

・主な資料公表場所、

札幌市市公式ホームページ

資料の配布・閲覧場所：札幌市役所本庁舎、各区役所、各まちづくりセンター、札幌国際プラザ、札幌エルプラザ、ちえりあ、国際交流館、留学生交流センター

◆ 提出された意見の内訳

・意見提出者数

提出者数：25名、件数：74件

・意見の提出方法

区分	件数
FAX	4
Eメール	9
ホームページ	9
郵送	3
持参	0
合計	25

・意見の内訳及び件数

区分	件数	割合
第1章 国際戦略プラン策定にあたって	1	1.4%
第2章 札幌市をとりまく社会・国際情勢	1	1.4%
第3章 札幌が目指す国際都市像	2	2.7%
第4章 基本方針	12	16.2%
第5章 戦略展開の基本的考え方	6	8.1%
第6章 推進にあたって	7	9.5%
第7章 実施計画(1期)	36	48.6%
計画全般について	9	12.2%
合計	74	

◆ 意見に基づく当初案からの変更点

市民の皆様からいただいたご意見を基に、当初案から3か所修正いたしました。また、他のご意見についても、プランを実施する上で、参考にしていきます。

該当部分	本文修正前	本文修正後
第3章 札幌が目指す国際都市像 1 国際化推進プランの成果と課題 (2)成果と課題	P9 1-(2)成果と課題 海外が身近になっている一方、外国人との交流や仕事をした経験がある人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。	P9 1-(2)成果と課題 海外が身近になっている一方、 外国籍市民の増加が少なく、外国企業等がほとんど進出していないことなどから 、外国人との交流や仕事をした経験がある人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。
第4章 基本方針 2 課題の分析と取組の方向性 (2)基本方針Ⅱ 多文化共生社会の実現～多様性と創造性の創出	P18 <課題と取組の方向性>(取組の方向性 1) 国際理解教育や英語力の育成を重視した教育の推進など、将来の札幌を支え、国際社会で活躍する自立した札幌人を育成します。	P18 <課題と取組の方向性>(取組の方向性 1) 国際理解教育や 語学力 の育成を重視した教育の推進など、将来の札幌を支え、国際社会で活躍する自立した札幌人を育成します。
第4章 基本方針 2 課題の分析と取組の方向性 (2)基本方針Ⅱ 多文化共生社会の実現～多様性と創造性の創出	P19 <まちの将来像> ・多様な文化的背景を持つ人々が、快適に札幌で暮らせるよう、言語や生活上の支援が行き渡っています。	P19 <まちの将来像> ・多様な文化的背景を持つ人々が、 安心して 快適に札幌で暮らせるよう、言語や生活上の支援が行き渡っています。

◆ 意見の概要と市の考え方

ご意見の概要と、それに対する札幌市の考え方については、別冊「札幌市国際戦略プラン パブリックコメント実施結果」に掲載しているほか、下記ホームページで公表しています。

URL <http://www.city.sapporo.jp/kokusai/strategy.html>